

「金剛流 ロシア能楽公演」
エルミタージュ美術館「樂一茶碗の中の宇宙展」開催を記念し、
金剛流宗家による能「羽衣」を上演



能「羽衣」舞台写真より



金剛永謹

国際交流基金(ジャパンファウンデーション)は、ロシアが世界に誇るエルミタージュ美術館における「樂一茶碗の中の宇宙」展の開催にあたり、「金剛流 ロシア能楽公演」を上演致します。

六百年の歴史を持つ能楽界において五流のうち四流の宗家が東京を本拠地としている中で、京都に宗家が存在する唯一の流儀である金剛流。今回は、二十六世宗家・金剛永謹師の監修/出演による能「羽衣」、素囃子「獅子」、また金剛流シテ方・今井清隆氏によるレクチャーも交え、重厚かつ華やかな演目により、日本が誇る伝統芸能の魅力をお届けします。

生活に伝統文化の息づく街・京都から、ロシアが誇る芸術の都・サンクトペテルブルクへ。日本の伝統芸能を体感し、つながることのできる一期一会の祝祭の舞台を、ぜひ取材いただけましたら幸いです。

事業の詳細やご取材については、お問い合わせ下さい。

- 【日時】 2015年7月10日(金) 19時開演—20時50分終演(予定)
- 【会場】 エルミタージュ美術館内 エルミタージュ劇場(サンクトペテルブルク)
- 【主催】 独立行政法人国際交流基金、公益財団法人樂美術館、エルミタージュ美術館、金剛流海外公演企画委員会
- 【共催】 在サンクトペテルブルク日本国総領事館、京都府
- 【協賛】 株式会社福寿園、株式会社小松製作所、三菱電機株式会社

●主催者・本事業に関するお問い合わせ: 国際交流基金 文化事業部 事業第2チーム (担当:大平、玉塚)

Tel: 03-5369-6063 / Fax: 03-5369-6038 / E-mail: arts2@jpf.go.jp

●広報用画像・取材に関するお問い合わせ: 岸 (公益財団法人 金剛能楽堂財団)

Tel: 075-441-7222 / Fax: 075-451-1008 / E-mail: kongou@isis.ocn.jp

【演目内容】

すばやし しし しやつきょう
一、素囃子「獅子」(「石橋」より)

【解説】

文殊の使いである獅子の霊験あらたかな舞い踊り、獅子の座につく姿を描いた「石橋」は、歌舞伎にも取入れられ石橋物と呼ばれる作品群を形成する程、言わば日本の伝統芸能を代表する作品のひとつ。今回は、素囃子による演奏のみで、作品が持つ緊迫感と迫力そして祝祭感をダイジェストでお届けします。

【出演】

囃子 笛／さいとう あつし 齊藤 敦、小鼓／おおくら げんじろう 大倉 源次郎、大鼓／かわむら しんのすけ 河村 眞之介、太鼓／まえかわ みつなり 前川 光範

二、レクチャー

お話／いまい きよたか 今井 清隆

のう はごろも
三、能「羽衣」

【解説】

昔話でもおなじみの羽衣伝説をもとにした作品で、室町後期以降、頻繁に上演される人気曲。能の大成者・世阿弥は伝書の中で、天女の舞を特別なものと考えていたようで、後の時代に舞の基本とされたと伝えられています。白砂青松、美しい天女の舞、そして遠く臨む富士山。金剛永謹の至芸と共に、格調高く展開します。

【出演】

シテ天人／こんごう ひさのり 金剛 永謹、ワキ漁夫白龍／ありまつ りょういち 有松 遼一

囃子 笛／さいとう あつし 齊藤 敦、小鼓／おおくら げんじろう 大倉 源次郎、大鼓／かわむら しんのすけ 河村 眞之介、太鼓／まえかわ みつなり 前川 光範

地謡 地頭／いまい きよたか 今井 清隆、うだか みちしげ 宇高 通成、こんごう たつのり 金剛 龍謹 後見／ひろたやすよし 廣田 泰能

●主催者・本事業に関するお問い合わせ：国際交流基金 文化事業部 事業第2チーム（担当：大平、玉塚）

Tel: 03-5369-6063 / Fax: 03-5369-6038 / E-mail: arts2@jpf.go.jp

●広報用画像・取材に関するお問い合わせ：岸（公益財団法人 金剛能楽堂財団）

Tel: 075-441-7222 / Fax: 075-451-1008 / E-mail: kongou@isis.ocn.jp